

目次

卷頭言——『木簡研究』第三〇号の刊行に憶う……………岩本次郎…………… 1

目次…………… iii

凡例…………… vii

二〇〇七年出土の木簡…………… 1

概要……………古尾谷 知浩…………… 1

奈良・平城宮跡……………浅野 啓介…………… 7

奈良・平城京跡……………狭川 真一…………… 10

奈良・石神遺跡……………市 大樹…………… 11

奈良・安倍寺跡……………木場 佳子…………… 16

奈良・大中遺跡……………濱野 俊一…………… 22

奈良・八王子神社……………鶴見 泰寿…………… 24

京都・難波野遺跡……………引原 茂治…………… 27

京都・平安京跡左京三条四坊十町・烏丸御池遺跡……………小檜山 一良…………… 29

京都・平安京跡右京五条一坊一〇四町……………加納 敬二…………… 32

京都・鳥羽離宮跡……………京都 吉崎 伸…………… 34

大阪・玉櫛遺跡……………大阪 信田真美世・赤松 佳奈…………… 36

兵庫・山野里宿遺跡(四ツ日地区)……………兵庫 島田 拓…………… 37

三重・志知南浦遺跡……………三重 竹田 憲治…………… 39

愛知・堅三蔵通遺跡……………愛知 水野 裕之…………… 40

愛知・富士見町遺跡……………愛知 水野 裕之…………… 42

愛知・平手町遺跡……………愛知 桐山 秀穂・石田 和哉…………… 43

愛知・今町遺跡……………愛知 野澤 則幸…………… 44

……………鈴木 正貴…………… 44

愛知・惣作遺跡	宮腰健司	46	秋田・古川堀反町遺跡	山村剛・菊池晋	112
静岡・駿府城内遺跡	河合修	47	秋田・久保田城跡(中土橋地区)	高橋学	116
静岡・ケイセイ遺跡	天石夏実	48	秋田・久保田城跡	西谷隆	118
東京・汐留遺跡	石崎俊哉	52	秋田・岩倉館跡	藤田賢哉	119
東京・尾張藩上屋敷跡遺跡	内野正	67	秋田・湊城跡	西谷隆	120
東京・浅草永住町遺跡	小俣悟	69	秋田・藩校明德館跡	高橋学	121
滋賀・街道遺跡	杉本源造	71	福井・福井城跡	本多達哉・河村健史	122
滋賀・手原遺跡	佐伯英樹	72	福井・府中石田遺跡	青木隆佳	128
滋賀・八幡東遺跡	山本孝行	76	石川・三社町遺跡	藤田邦雄	129
滋賀・塩津港遺跡	横田洋三・濱修	78	石川・森ガッコウ遺跡	金山哲哉	130
滋賀・国領遺跡	神保忠宏	88	新潟・沖ノ羽遺跡	遠藤恭雄・相沢央	131
滋賀・関津遺跡	藤崎高志・吉田秀則	93	新潟・延命寺遺跡	山崎忠良・田中一穂	133
岐阜・浦畑遺跡	近藤大典	96	新潟・五反田遺跡	渡邊裕之	138
長野・東條遺跡	岡村秀雄	97	新潟・前波南遺跡	春日真実・石川智紀	139
群馬・上郷岡原遺跡	高島英之	98	新潟・田伏山崎遺跡	佐藤友子	141
栃木・史跡足利学校跡	市橋一郎	99	新潟・大角地遺跡(1)	田中一穂・加藤学	142
栃木・樺崎寺跡	板橋稔	100	新潟・大角地遺跡(2)	山岸洋一	143
宮城・史跡仙台城跡	渡部紀	101	新潟・窪田遺跡	木村雄司	144
宮城・洞ノ口遺跡	平間亮輔	103	新潟・堅木遺跡	藤巻正信	147
山形・梅野木前1遺跡	須藤英之	110	新潟・近世新潟町跡	佐藤友子	148
山形・服部遺跡	高桑弘美	111	鳥取・大谷遺跡	佐伯純也	150
			広小路堀地点		

鳥取・米子城跡六遺跡	中森 祥	151	福岡・室町遺跡	宇野 慎敏・柴尾 俊介	172
鳥根・山持遺跡(Ⅱ・Ⅲ区)	池淵 俊一・平石 充	152	福岡・小倉城跡	梅崎 恵司・中村利至久	174
鳥根・山持遺跡	原田 敏照	154	福岡・大門遺跡	山口 信義	175
鳥根・築山遺跡	高橋 周	157	福岡・小倉城桜町口門跡	山口 信義	177
岡山・南溝手遺跡	松尾 佳子	159	福岡・大手町遺跡(小倉城外堀跡)	前田 義人	178
広島・広島城跡	福原 茂樹	160	福岡・黒崎城跡七区	宇野 慎敏	179
広島・広島城外堀跡	福原 茂樹	167	福岡・京隈侍屋敷遺跡	水原 道範	185
山口・萩城跡(外堀地区)	谷口 哲一	169	福岡・矢加部町屋敷遺跡	酒井 芳司	186
山口・下右田遺跡	佐々木 達也	171	宮崎・曾井第二遺跡	甲斐 貴充	188
一九七七年以前出土の木簡(三〇)		191			
奈良・平城宮跡	山本 崇	191			
京都・平安京跡右京六条三坊(第二四号)	堀内 明博	194	鳥根・青木遺跡(第二五・二六号)	平石 充	211
静岡・伊場遺跡(第一号)	鈴木 敏則・渡辺 晃宏	196	大分・飯塚遺跡(第二二・二四号)	永松みゆき・渡辺 晃宏	217
新潟・駒首潟遺跡(第二九号)	相沢 央	209			
韓國木簡學會の出帆と展望			韓國木簡學會會長	朱 甫 暉	225
荷札と荷物のかたるもの				馬場 基	233

歌木簡の実態とその機能……………栄原 永遠男……………265

彙報……………渡辺 晃宏……………313

『木簡研究』第二六～三〇号総目次……………316

研究集会(第二〇回～二九回)・特別研究集会(但馬・九州)報告一覽……………335

編集後記……………鷺森 浩幸……………(1) 338

英文目次……………

コラム

木簡の再検討と地域社会の展開……………(岩本 次郎)……………45

俵の付札と俵中の切紙……………(鈴木 景二)……………70

百年の理由……………(馬場 基)……………77

異体字雑感……………(馬場 基)……………92

新たな百済木簡の出土……………(橋本 繁)……………132

会告……………

三〇周年記念シンポジウムの開催について……………315

図版

- 一 石神遺跡出土木簡
- 二 手原遺跡出土木簡
- 三 ケイセイ遺跡出土木簡